

わたりだ

渡田小学校教育目標
やる気いっぱい
笑顔いっぱい
元気いっぱい
川崎市立渡田小学校

2024. 8. 30

2024 夏

学校長 楠田 典子

間もなく9月を迎えますが、皆様のご家庭では、今年の夏をどのように過ごされたでしょうか。と言っても、夏は過去のものではなく、気候を考えるとまだまだ続いているとしか思えません。

私がこの夏最も注目したのは、なんといってもパリで開催されたオリンピックです。コロナウィルス感染症拡大の影響で1年開催が延期され、しかも無観客という異常事態の中で行われた前回の東京オリンピックで私自身がボランティアを体験したこともあって、観客に見守られながら行われるパリオリンピックを、少しまぶしく感じながら眺めていました。前回の東京大会の際には、コロナ禍の中開催することに対して反対する世論が強く、早朝、ボランティアのユニフォームを着て会場までの電車に乗る際には（ボランティアは家、または宿泊地からユニフォームを着てくるように指示されていました。）、反対している人から何か危害を加えられないか心配で、周りをきょろきょろ見回しながら歩いていたことを鮮明に覚えています。それに対して今回のパリオリンピックでは、どの競技においても、選手たちは観客の応援に後押しされたり、ともに喜びや無念さを分かち合ったりしていました。国の代表として、荣誉とともに耐え難い重責を背負いながらオリンピックに臨んでいる選手たちにとって、友人や家族など近い人からだけでなく、見ず知らずの観客から受ける温かい拍手は、何よりもありがたかったに違いありません。スポーツは、必ずしもプレーしている人だけで成立するものではないことを、改めて感じました。28日からは、パラリンピックが始まりました。障がい乗り越えて自分の限界に挑戦する選手たちの活躍を心から応援して、熱い思いを少しでも共有したいと思います。

もう一つ衝撃的だったことは、日向灘を震源とする地震をきっかけに、史上初めて南海トラフ地震に関する臨時情報が発令されたことでした。今まで漠然と「近々発生することが予想されている地震」としてしか認識していなかったものが、自分たちと隣り合わせに確かに存在していることを改めて思い知らされた出来事でした。ここで素朴な疑問です。南海トラフ地震の「トラフ」とはどんな意味の言葉なのでしょう。私は以前読んだ本の中に書いてあったような気がして、本棚をひっくり返して探してみたところ、ありました、その本が。山崎晴雄・久保純子 著「日本列島100万年史～大地に刻まれた壮大な物語～」です。今回臨時情報の発令を聞いて、改めてこの本を読み返してみました。弓形をしている日本列島など、今私たちが目にしている地形は、生きている地球の地殻変動によってできたこと、そしてそれは「諸行無常」ならぬ「諸地形無常」と言えるほど流動的なことなどが書いてありました。今回の臨時情報発令という出来事が、この本の中に広がっている知識を自分事に引き寄せてくれたともいえます。学ぶ楽しさをまた味わえた気がして、少しうれしくなりました。さて、話を戻して「トラフ」とは何でしょうか。ぜひお子さんと一緒に調べてみてください。そして地球の大地の歴史にも触れてみてください。5年生の社会科の授業でも、世界の地理に関する学習をした時に「現在の大陸は昔、1つの大きな大陸としてくっついていた時期があった（大陸移動説）」という話をしたら、子どもたちはとても興味を示していました。学ぶことによって、いつも何気なく踏みしめている足元の地面が、今までと違って見えてくるかもしれません。